

(港支部)

「社会科って楽しいやん」と思える子どもを育てる授業の創造」

～ユニバーサルデザインの視点を生かした指導法の工夫～

大阪市立市岡小学校 学力向上部

1. 研究主題設定の理由

本昨年度、「社会科は好きですか」とアンケートをとったところ、「好きではない」「あまり好きではない」という否定的な回答をした子どもが約半数にのぼった。

その理由として「テストが難しい」「覚えることが多い」「ノートにたくさん書かなければならない」「そもそも社会科で学習する内容に興味がない」などの意見があがった。

調べ学習によって新しい知識を得たり、友達と考えを交流することで新たな発見をしたりといった本来の社会科の楽しさを味わうことが少なく、板書をただ書き写したり、テストで難しい問題に戸惑ったりという否定的な体験が多かったことで、「社会科が好きではない」と感じる子どもが多くいたことがわかった。そこで子どもたちが問いを持ち、主体的に学習に取り組むことができる社会科学習をすすめることが大切であると考え、研究主題を『「社会科って楽しいやん」と思える子どもを育てる授業の創造～ユニバーサルデザインの視点を生かした指導法の工夫～』とし、令和5年度より2年間、社会科の研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

子どもへのアンケートと同時に、教員にも「社会科の授業で困っていることは何か」とアンケートをとった。すると「社会科の授業の型が分からず、どう進めていけばよいのか分からない」「教える内容が多く、45分で終わらないことがある」「自分自身も社会科が苦手で、どう教えたらいいか悩んでいる」といった回答があった。このように、教員が苦手意識をもって社会科の授業を進めていくことで、授業内容が子どもの興味関心を引くものにはなりにくくなっていると思われ、このことも「社会科が好きではない」という子どもが半数にのぼった理由の1つと考えられる。

そこで、本校では、まず教員が楽しい社会科の授業の作り方を学び、社会科の授業の型を統一したり、資料を工夫したりすることで教員の授業力向上に取り組むこととした。本校教員の授業力が向上することに伴い、子どもにとっても「社会科って楽しい」と感じられる授業になることをめざして、この主題を設定した。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

①社会科授業の「型」の統一

中单元においては「出合う」「分かる」「生かす」の3つの「型」、小单元（毎時間の授業）においては「問い」「調べる」「考える」「ふり返り」の4つの「型」に統一して指導することで、指導者も安定して授業を進めることができ、子どもにとっても見通しをもって授業に参加しやすくなると考えた。

②どの子ども興味をもてる資料の工夫

教科書や資料集、動画などの多くの資料がある中で、子どもが興味をもって調べ学習が

できるように工夫することとした。本時の問いに迫る資料を提示したり、ロイロノートで配付し、細かいところまで拡大して見られるようにしたりできるなどの工夫をすることとした。

③誰もが参加しやすい「話し合い」活動の工夫

調べたことをもとに「考える」時間を設定し、子ども一人一人が自分の考えをもつようにした。その後ペアやグループで交流し、学級全体で話し合う活動を取り入れることで、より理解を深められるようにした。グループでの話し合いに際しては、話型を示した「話し合いカード」を配付し、話し合いがより深められるようにした。

④次の学習へとつながる「ふり返し」活動の設定

「調べる」「考える」活動を経て、「問い」に対するまとめの後に「ふり返し」を行う時間を設定することとした。「ふり返し」を行う際には、主に自分を主語にして考えさせる。「私は・・・をしようと思った」「これから・・・していきたい」など、学んだことを自分のこととしてとらえることで学びをより深めることができると考え、この活動を設定した。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○「型」の統一

- ・中単元では「出合う」「分かる」「生かす」、小単元（毎時間の授業）では「問い」「調べる」「考える」「ふり返し」という社会科授業の「型」を統一したことにより、授業の流れがスムーズになった。

○資料の工夫

- ・資料を厳選し、ロイロノートで配付したことにより、子どもが自分で資料を拡大して調べることができた。そのことで、資料を鮮明にみることであったり、子どもが学習内容に興味をもち有効であった。また、中単元の学習計画に社会見学やゲストティーチャーのかかわりを位置づけたことで、子どもの学習意欲を継続し、高めることができた。

○「話し合い」活動

- ・調べたことをもとにして、「なぜ～なのか」など、子どもが考えを深められる話題を設定して考え、話し合い活動を行うようにした。多くの子どもが自分の考えをもてるようにノートに自分の考えを書き、ペアやグループで交流したことにより、自信をもって考えを発表できるようになった。

○「ふり返し」活動

- ・「問いに対する答え」を「まとめ」としてノートに書くことができるようになった。さらに「わたしは・・・」と自分を主語にして考えたことで自分との関わりでふり返し、新たな課題や次時につながる課題などを書いたりする姿を見ることができるようになってきた。

(2) 今後の課題

- ・「問い」「調べる」「考える」「ふり返し」の四段階を 45 分の中に毎時間設定することが難しい。特に「話し合い活動」も入れるためには、時間配分を工夫する必要がある。
- ・資料を精選したり、教科書・資料集以外から独自に資料を集めたりすることに時間がかかる。そのため、各学年で使った資料は共有フォルダに入れておき、全教員が使えるようにしていく。